

教員養成に関わる理念（大学院）

日本文学専攻

本学大学院文学研究科日本文学専攻課程における教職課程の理念及び設置の趣旨は、学部における日本文学科の教職課程の基盤をふまえ、「国語」という教科指導に携わる教員として、日本文学及び日本語学全般に亘る、大学院修了レベルの高度で幅広い学問的知見を身につけ、豊かな人間性を兼ね備えた実践的指導力を有する人材を育成するということである。修了者は、中学校・高等学校の各専修免許を取得することができる。

教員を目指す院生には、教職への明確な目的意識と教育的情熱を持つことと、未来を担う人間育成に携わるという社会的重責を自覚することが要請されるが、それらは現代の教育環境における諸問題を認識し、その解決に向けての実践への果敢な取り組みを要求されることでもある。換言すれば、大学院でのより高度な勉学・研究を踏まえ、人間や世界についての深い問題意識を持ち、豊かな感受性を養い、日本語リテラシーを高め、生徒の人間性にも深く関わりつつ指導する能力が求められる。

取得可能免許状：中専免（国語）・高専免（国語）

中国学専攻

文学研究科中国学専攻の教育は「漢学」の現代的表現である「中国古典学(中国学)」を軸に据え、日本文化・東洋文化にまで外延を広げるものである。本専攻のカリキュラムはこれに沿ったものとなっており、中国古典学における哲学・文学・史学の全分野にわたり、高度な専門知識を教授することを主とし、併せて日本文化・東洋文化に関わる学識の教授にも配慮している。

1965年に設置された本専攻の教職課程の理念は、カリキュラムの特性を生かし、国語科の教科専門分野の中でも日本文化・日本文学及び日本語の発展に大きく関与してきた漢字文化や漢文について高度な専門知識を持つ教員を養成することである。

中国古典学の教育を通じて、教育現場における様々な問題により適切に対処できる実践力を身につけた教員を養成することも本専攻教職課程の目ざすところである。

本専攻の大学院生は教職を目ざす者の割合が高い。本学の制度を活用し、本専攻大学院生のほとんど全員を教育補助員として採用し、学部学生の学業に関する各種相談に当たらせている。教育実習とは異なる、現実の教育を体験させることは本専攻大学院生の将来に必ず寄与する所があるはずである。

なお、本専攻は2008年度より小・中・高等学校の現職専任教員を対象に、修業年限1年で大学院修士課程を修了する現職教員一年修了コースを開設した。教科専門科目の中でも国

語科の漢文学分野についての高度な専門知識を習得し、一年間で修士の学位と中学・高校の国語科専修免許状を取得するものである。

取得可能免許状：中専免（国語）・高専免（国語）

英文学専攻

英文学専攻は大学の建学の精神である「東西文化の融合」と現代社会に即応した「多文化共生と新しい価値の不断の創造」の精神に依拠しつつ、学部の目標である「英語文学、言語文化、英語コミュニケーションを介しての国際的な視点を持った人物の育成」を根幹に据えながら、英文学、アメリカ文学、英語文学、英語学、英語圏文化を学修しながら総合的人間学を学ぶことを目標としている。

この理念目標により英語教員を希望する学生は、各自の専門分野である英文学、アメリカ文学、英語学、英語圏文化論を学ぶ4つの「演習」科目群と関連する4つの「特殊講義」科目群を通じて西洋の知識、伝統、価値を深く理解し豊かな人間性を育みながら国際的な判断力と創造性を持つ英語教員へと通じる学問の道を歩むことになる。このような資質を備える教員を目指し海外留学、教育現場での実践的な経験（インターンシップ）等により英語教員としての英語運用力を高めて自分の専門分野での研究を英語教育に応用できる総合的な英語力を涵養することが期待される。

多様化する国際関係と著しく価値観が変貌する現代社会の中で、日本国内だけの英語教育を視野に入れるのではなく、国際社会への関心とグローバルな感覚そして確固としてゆるぎない信念をもつ英語教員の養成を目指している。

取得可能免許状：認定課程：中専免（英語）・高専免（英語）

教育学専攻

本専攻は、教育学を主たる研究対象とし、教育を研究する学生の力量を培うとともに、高度な専門知識と技能を備えた教員の養成を目的としている。教育学はすぐれて実践的な学問であり、理論的・原理的探究をふまえながらも、教育の実践と事実在即し、その諸問題を解明・解決することを目指すものである。現在、日本の教育はいじめ問題、不登校問題、学力問題など多くの難しい問題をかかえており、児童・生徒の指導にあたる教員には、教育についての深い洞察と高い専門力量が求められている。日本の教員養成制度においては、今後大学院レベルでの教員養成の必要性が高まるものと推測される。それは教育諸問題の複雑化、知識集約社会と情報化の進展、教育の国際化などのなかで、教員にいっそう高度な専門知識・技能が求められるからである。とりわけ、各教育現場でリーダー的な役割を果たす教員には高い専門性が需要で、大学院レベルでの研究と実践的トレーニングに裏付けられた指導

力量が求められる。本専攻は、このような現代的ニーズに応えようとするものである。本専攻では、本学または他の大学を卒業して初等教育の教員免許を取得した者で、引き続きより高度な専門知識と技能を身につけることを希望する学生を受け入れ、理論と実践を有機的に結合したカリキュラムを履修させ、高度な実践・研究力量をそなえた小学校の教員を養成し、修了時に初等教育の専修免許を取得できるようにする。また、教育学系の大学院は、上記のように高度な専門性をそなえた教員を新規に養成するとともに、現職教員が自己の視野を広げ実践力を高めるためのリカレント教育の場でもなければならない。本専攻では、現職教員でさまざまなキャリア・ステージにある者を受け入れ、理論と実践を架橋したカリキュラムを履修させ、学習指導、生活指導、学級・学校経営などの諸分野に関して学問に裏づけられた広い視野と高度な指導力量をそなえたリーダー的教員を養成することも同時に目指している。

取得可能免許状：小専免

書道学専攻

「書道学」の理念は、「漢字文化及び仮名文化に立脚する〈書〉の本質を、伝統的視点はもとより社会的視点や学際的視点及び未来的視点等広い視点から解明し、歴史・理論・技法・鑑賞・表現等を組織的体系的に考究するものである。」と定義している。このような理念を基盤にして、書道学専攻では、中国書学、中国書法、日本書学、日本書道、書跡文化財学の5つの小専攻に分かれ、それらは相互にパイプで結ばれ、幅広い研究が可能になっている。

教職課程「書道」における教員養成では、東アジアの漢字文化圏全体を視野に入れた「書道学」の方法により、留学生や社会人を交えた国や年齢を超えた幅広い層の交流や、本学から海外への留学によって他国の歴史や文化に触れる体験そのものが、まさに国際交流の成果として期待できる。本学書道学専攻教職課程では、単なる「書道」の技法面だけでなく、高度な学問と、豊かな人間性を有する指導者の養成とともに、高度職業人を目指した育成に主眼が置かれている。現在、すでに書道学専攻修了者の中には、高等学校の現場において、「書道」または「国語」の教員のほか、大学教員、学芸員、書家としても活躍している。

取得可能免許状：高専免（書道）

中国言語文化専攻

本研究科中国言語文化学専攻では、学士課程における教育内容の基盤の上に立って、国際的視野の拡大、異文化理解力の深化、及び中国語コミュニケーション能力の向上、中国語教育の知見・技能の習得に努め、社会のグローバル化に柔軟な対応ができ、中国語の教育現場

において、より高い中国語教育に貢献できる中学校・高等学校教員の養成を目的としている。中国言語文化学専攻のカリキュラムでは、中国語学、中国語教育学、中国言語文化学の三専門分野の学修を通じて、国際的に通用する幅広い専門的涵養と高度な語学力の養成を図り、また豊かな人間性と社会性を醸成し、常に自己の実践的指導力向上に努力する教員の養成に努めている。自然環境と人類の生存に関わる地球規模の諸問題が生起する今日、自ら問題意識を抱き、解決策を思考できる、強い責任感と創造力を兼備した中国語教育のエキスパート、異文化コミュニケーター、或いは国際的教養人として、グローバル化社会に積極的に貢献しうる付加価値性の高い教員の養成を目指している。

取得可能免許状：中専免（中国語）・高専免（中国語）

英語学専攻

本研究科英語学専攻では、学士課程における教育内容の基盤の上に立って、国際的視野の拡大、異文化理解力の深化、および英語コミュニケーション能力の向上、英語教育の知見・技能の習得に努め、社会のグローバル化に柔軟な対応ができ、日本の教育現場において、より高い英語教育に貢献できる教員の養成を目的としている。英語学専攻カリキュラムでは、英語学、英語教育学、言語文化学の三専門分野の学修を通じて、国際的に通用する幅広い教養の涵養と高度語学力の養成を図り、また豊かな人間性と社会性を醸成し、常に自己の実践的指導力向上に努力する教員の養成に努めている。自然環境と人類の生存に関わる地球規模の諸問題が生起する今日、自ら問題意識を抱き、解決策を思考できる、強い責任感と創造力を兼備した英語教育のエキスパート、異文化コミュニケーター、あるいは国際的教養人として、グローバル化社会に積極的に貢献しうる付加価値性の高い教員の養成を目指している。

取得可能免許状：中専免（英語）・高専免（英語）

日本言語文化学専攻

本研究科日本言語文化学専攻では、学士課程における教育内容の基盤の上に立って、国際的視野の拡大、異文化理解力の深化、および日本語学、言語学、日本文学をふまえた国語教育の知見・技能の増大に努め、社会のグローバル化に柔軟に対応でき、日本の教育現場において、より高い国語教育に携わることのできる中学校・高等学校教員を養成することを目的としている。

日本言語文化学専攻カリキュラムでは、日本語学、言語学、日本語教育学、日本言語文化学の学修を通じて、国語にかかわる専門的知識と幅広い教養の涵養の養成を図り、また豊かな人間性と社会性を醸成し、常に自己の実践的指導力向上に努力する教員の養成に努めている。自然環境と人類の生存に関わる地球規模の諸問題が生起する今日、自ら問題意識を抱

き、解決策を思考できる、強い責任感と創造力を兼備した国語教育のエキスパートを養成する。加えて、異文化コミュニケーターならびに国際的教養人として、来日して中学・高校に在籍する留学生への日本語教育をも視野に入れたグローバル化社会に積極的に貢献しうる付加価値性の高い教員の養成を目指している。

取得可能免許状：中専免（国語）・高専免（国語）

経営学専攻

大学院経営学研究科においては、「教職に関する深い理解をもち、教科に関する研究力量と教育実践に関する高度な知識・技能を備え、教育現場において指導的役割を果たせるような中・高等教員を養成する」ことを理念としている。知識基盤社会や、教育の情報化やグローバル化の進展、あるいは問題解決力の育成等への対応が今日的課題といわれる教育環境を考えると、中・高等学校における教員に対してもより一層高度な知識と技能・技術の獲得が求められている。換言すれば、教員にとって、教職に関する高度な知識・技能を獲得し、現実社会を見据えた、即戦力たりうる、指導的役割を持った人材になることが求められているといえる。本研究科ではこれらの教育に対する今日的要請を踏まえて、教員の新規養成だけでなく、現職にある者の再教育や再研修の場としての教職課程の履修機関を設置する。本研究科では、今日の時代的要請にこたえるべく教職課程を設置している。すなわち、経営学、商学・マーケティング、知識・情報マネジメント、会計学の4つの専門学群と、それらの学問に関連する実践的講義科目を配置し、高度な実践的力量を培えるようにしている。学生は、その中から必要に応じて教職科目を履修することができ、教科教育を深く洞察する研究能力を育てることが可能である。また、近隣の中学・高校から要請があった場合には、大学院生の教員志望者をアシスタント・ティーチャーとして派遣する。

取得可能免許状：高専免（商業）

スポーツ・健康科学専攻

我国においては、近年の複雑・多様化の一途をたどる自然・社会環境を背景に、青少年から高齢者までを対象にしたスポーツ活動に対する心身の適応と行動、そして健康に関する諸問題を視野に入れた教育研究の必要性が増大してきた。そこでスポーツ・健康科学研究科は、ヒトの健康や医療、そしてスポーツ科学に関する諸問題を分野横断的な視座から解決することを目指し、人間という視点から、適応、行動、健康、医療に関する科学を理解させるような教育研究指導を行うことで高度な専門的知識を有する教員、専門的指導者及び職業人を育成することを理念として、2009年(平(21))に開設された。本研究科の教員養成に対する理念・構想は、ヒトの健康や医療、そしてスポーツ・健康科学に関する諸問題を分野横断

的な視座から解決することのできる幅広い視野と高度な知識・技能をもった教員を社会に輩出することである。そのことによって、スポーツ・健康科学領域が発展するとともにその教員が指導する児童、学生及び父兄の健康や QOL の向上、さらに地域住民の健康の維持・増進に貢献することが可能となる。また、少子高齢化社会を迎え、国民の保健と医療の両面で、QOL に基づいた高度予防医学を提供するためには、幅広い専門的知識を有した教員の養成が急務である。スポーツ活動に対する心身の適応と行動及び国民の保健と医療に関する研究は、「人間」を対象とした複合的な学問領域から成り立っており、方法論的にも対象論的にも諸科学を基礎とし、それらを統合した枠組みが必要である。そこで、本研究科は、スポーツ科学分野と健康科学分野の2分野を組織し、幅広い学際的な知識を修得させるために多くの専門分野外の特論・演習の履修を可能としている。この枠組みの中で、ヒトの健康や医療、そしてスポーツ・健康科学に関する諸問題を分野横断的な視座から解決することのできる幅広い視野と高度な知識・技能をもった教員を社会に輩出することが可能となる。

取得可能免許状：中専免（保健体育）・高専免（保健体育）